

NEWS RELEASE

フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 企画写真展

ロベール・ドアノー写真展
第二部 「“永遠の3秒”の原点」

2024年8月



地下鉄オペラ駅の恋人たち、パリ1950年 ©Atelier Robert Doisneau/Contact

第二部：2024年10月31日（木）-12月26日（木）

会期中無休

会場：フジフィルム スクエア 写真歴史博物館

入館無料

■ 写真展の見どころ

- ・フランスの国民的写真家とも称されるロベール・ドアノーの写真展を第一部「パリ郊外～城壁の外側～」に続いて開催します。
- ・第二部では、写真家ロベール・ドアノーの「職業写真家」としての側面に焦点を当て代表作の背景を再考することで、ドアノーが生きた時代の写真とメディアの歴史を提示します。

■ 写真展概要

フジフィルム スクエア 写真歴史博物館では、フランスの国民的写真家とも称されるロベール・ドアノー企画写真展の第二部「永遠の3秒」の原点を開催します。

「今まで成功した写真はせいぜい300点。1点が1/100秒だとすると、50年でたったの3秒だ」（ロベール・ドアノー）。パリ郊外の労働者階級の家生まれた子どもたちの例にもれず、十代から働いていたロベール・ドアノーにとって「写真を撮ること」＝「生活の糧を得ること」でした。その作品が評価され名前が知られるようになって、一貫して「職人」という立ち位置を崩すことなく、粛々と写真を撮り続けました。その生涯を通じて撮影された約45万点の写真の大半は依頼された仕事のために撮影されたものと言われており、現在ドアノーの代表作として知られる多くの作品も例外ではありません。

本展は、“職業写真家としてのロベール・ドアノー”に焦点を当て、当時の雑誌や広告の仕事から精選した38点を展示します。時代や国境を越えて愛され続ける「パリ市庁舎前のキス」は、1950年米国のグラフィック雑誌『LIFE』から「パリの恋人たち」というテーマで依頼を受け撮影され同誌に7点の組写真として掲載された1点でした。この作品が一気に注目を浴びるようになったのは、それから約30年後のことでした。1979年に刊行された写真集『永遠の3秒（trois seconds d'éternité）』に掲載されたことが契機となり、この写真のポスター、ポストカードが販売され世界中に知れわたることになったのです。

ロベール・ドアノーが写真家を志した1930年代、写真の仕事には多くの技術が求められる時代でした。多くの可能性を持つ“新しいメディア”でもあった写真に魅入られたドアノーは、仕事という枠組みの中で「不服従と好奇心は写真家の原動力」という自らの哲学を実践し、独自の視点による写真を撮り続けました。本展では、産業カメラマンとして働いていたルノー社での仕事、『LIFE』、『ポワン・ド・ヴュ（Point de Vue）』、『ル・ポワン（Le Point）』といった雑誌に掲載された作品、さらに広告のために撮影された作品を一堂に展示します。

■ 開催概要

写真展名： フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 企画写真展
ロベール・ドアノー写真展第二部「永遠の3秒」の原点

開催期間： 第二部：2024年10月31日（木）-12月26日（木）
10:00-19:00（12月26日（木）は14:00まで、入館は終了10分前まで） 会期中無休
※ 写真展はやむを得ず、中止・変更させていただく場合がございます。ウェブサイト・電話でご確認ください。

会場： フジフィルム スクエア 写真歴史博物館
〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7番3号（東京ミッドタウン・ウエスト）
TEL 03-6271-3350 URL <https://fujifilmsquare.jp/>
※ 写真展情報は、開催日の前月から 富士フィルムウェブサイトにて、ご案内しています。



入館料： 無料 ※ 企業メセナとして実施しており、より多くの方に楽しんでいただくために入館無料にしております。

作品点数： 六切、小全紙 モノクロ、カラー38点（予定）
・フィルムによる作品。
・モノクロ作品は銀塩印画紙によるオリジナルプリント、カラー作品は今回の展示用に制作した「銀写真プリント」を使用。

主催： 富士フィルム株式会社

後援： 港区教育委員会

企画協力： アトリエ・ロベール・ドアノー

企画： コンタクト

■ 出展者紹介

ロベール・ドアノー (Robert Doisneau) 略歴 :

1912年、パリ郊外ヴァル・ド・マルヌ県ジャンティイ生まれ。石版工の技術取得のためパリのエコール・エスティエンヌで学んだ後、写真家アンドレ・ヴィニョーの助手となる。1934年、ルノー社に産業カメラマンとして入社。1939年、フリーとして活動を開始。パリを中心に庶民の日常をとらえた写真で高い評価を得、現在でも世界中で愛され続けている。1951年には、ニューヨーク近代美術館で開催された《5人のフランス人写真家》展の出品作家に選ばれる。1992年、オックスフォード近代美術館で大回顧展を開催。1994年没(享年82)。ニエプス賞(1956年)、フランス写真大賞(1983年)など受賞多数。

■ 写真展併催イベント

【写真展開催記念 映画上映&トークイベント】

写真展開催を記念して、ロベール・ドアノーのドキュメンタリー映画『パリが愛した写真家/ロベール・ドアノー <永遠の3秒>』を上映します。また、写真家 平間 至氏をゲストにお迎えし、「写真家という仕事」をテーマにトークイベントを上映前に開催予定です。

日時： 11月4日 (月・振休) 16:00~18:30 (受付 15:30~)

会場：フジフィルム スクエア 2F特設会場 (座席あり)

(フジフィルム スクエアよりご入場ください)

※ 座席は自由で、当日受付順に会場にご入場いただきます。

※ トークイベントは映画上映前の16:00~17:00に開催予定です。

【ドキュメンタリー映画】

映画『パリが愛した写真家ロベール・ドアノー <永遠の3秒>』

2016年 / 80分 / フランス / 日本語字幕

配給：ブロードメディア

監督：クレモンティーヌ・ドルディル

【トークイベント】

テーマ：「写真家という仕事」

ゲスト：写真家 平間 至 氏

聞き手：コンタクト 佐藤 正子 氏

参加費：無料

【予約】

要申込、ウェブサイト、電話にて(10月1日(火)10時より受付開始予定、

詳細は9月中旬頃フジフィルム スクエア ウェブサイトに掲載予定。)

※ 写真展・イベントはやむを得ず、中止・変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

■ 出展作品の一部 (予定)



組み立て作業 1946年
©Atelier Robert Doisneau/Contact



パリ市庁舎前のキス 1950年
©Atelier Robert Doisneau/Contact



ピカソのパン、ヴァロリス 1952年
©Atelier Robert Doisneau/Contact



シムカの広告 1955年
©Atelier Robert Doisneau/Contact



シムカの広告、アロンド 1951年
©Atelier Robert Doisneau/Contact

■ 写真歴史博物館 について

～ 190年を越える写真の変遷を中心とした展示 ～

貴重なアンティークカメラや富士フィルムの歴代カメラの展示に加え、歴史的に価値のある写真を展示する企画展も定期的を開催しております。写真の文化、カメラの歴史的進化をご覧いただける希少価値の高い博物館です。190年を越える写真文化の変遷をぜひお楽しみください。



[写真使用についてのお願い]

- ② 本写真展の告知以外にはご使用にならないでください。また、使用終了後は、写真データを破棄ください。
- ② トリミングはお控えください。③ クレジット表記がある場合は明記ください。④ 写真の上に文字は載せないでください。

FUJIFILM SQUARE

写真を中心とする富士フィルムのフォトギャラリー&ショップ。入館無料で、どなたでもお気軽にご覧いただけます。クオリティの高いさまざまなジャンルの写真を展示する富士フィルムフォトサロン、写真とカメラの歴史を学べる写真歴史博物館の他、最新の富士フィルム製品をご体験いただけるコーナー、さらには、スキンケア・サプリメント商品の販売を行うショップもあり、幅広い層の方にお楽しみいただける施設です。年中無休（年末年始を除く）、入館無料。



写真歴史博物館は、2024年、公益社団法人企業メセナ協議会より、「芸術・文化振興による社会創造活動」として「THIS IS MECENAT 2024」の認定を受けております。